

向井智久,

建築研究所
構造研究グループ, 主任研究員



・ **テーマ名:**

被災建築物の迅速な判定方法構築と実運用に向けた取り組み

・ **発表概要**

2015 年以降リーグルジャパンの全面的な協力を得て, 部材レベルや実大 5 層静的増分架構実験や大型の振動実験, そして被災地にある実建物の計測や長崎県端島における住棟の計測, およびそれを 3 次元化した点群データを用いた分析手法に関する技術開発を共同研究者らと進め, 現在, それらを一つの利用マニュアルとして纏め, 将来建築関係分野に広くご利用頂けるための作成作業を行っている。ここでは上記活動を概観し, 将来動向を展望したい。

・ **自己紹介:**

これまで主として鉄筋コンクリート造を対象とした構造実験やその解析, 実建物の被害調査, 途上国における日本の耐震研究指導などの活動を行ってきていますが, ここで話題提供する近年の新しい計測技術を合理的に防災に応用する方法の検討を進めています。現在では PRISM や SIP と呼ばれる研究プロジェクトを実施しており, ここではその活動の一部も紹介できればと思います。